

「聖教類研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、川崎大師教学研究所が所蔵する聖教の整理、並びにその研究を目的とし、平成 27 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所元所長 福田亮成（研究会代表）
- ・川崎大師教学研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究所研究員 鈴木晋雄
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

本年（令和 5 年）は、前年に引き続き義剛（?～1715）撰『釈論打集類聚』をテキストとして、翻刻・書き下し作業の完成を目指した。しかし同時に活動している「『菩提心論抄』研究会」の開催に伴い、本研究会の日程調整が困難となり本年も未開催となった（駒井信勝研究員以下 4 名が「『菩提心論抄』研究会」に参加中）。

『羯磨文談義』研究会」活動報告

文責 佐竹隆信

本研究会は、『羯磨文談義』の研究を目的として、平成 29 年に発足した。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所研究員・大正大学非常勤講師 別所弘淳
(研究会代表)
- ・大正大学名誉教授 苫米地誠一
- ・龍谷大学文学部特任准教授 大谷由香
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信
- ・大正大学大学院博士後期課程満期退学 荒谷友美(旧姓:池田)

昨年に引き続き、本研究会では大正大学図書館所蔵本(旧平等心王院所蔵本)を底本とし、西大寺所蔵本、川崎大師教学研究所所蔵本(旧新大仏寺所蔵本)、現光寺所蔵本(真言宗智山派:京都・木津川市)を対校本として、翻刻・校訂作業を進めている。

現在は「ZOOM」によるオンライン研究会の方式を導入しており、毎月一回程度の定期的な開催が可能となっている。これにより本年(令和5年)は、『羯磨文談義』翻刻本文の校訂作業も終了に近づいている。

現在は一応の翻刻を経て、研究会全員により西大寺本・川崎大師本・現光寺本との校異を確認しており、引き続き川崎大師教学研究所所蔵本の巻頭に付された戒脈図の翻刻を進めている。

また今年度、新たに大谷大学図書館に二本の存在を確認し、写真を入手することができた。この大谷大学所蔵本の本文校訂への反映について、今後の検討が必要となっている。

さらに校訂作業が完了した段階で、内容の検討や訓読・加註作業を進めていくことを考えている。

今後もオンラインを中心として定期的に研究会を開き、より一層の研究進展に努めたい。

『菩提心論抄』研究会」活動報告

文責 佐々木大樹

本研究会では、平安時代末期に遡ると推定される『(仮称) 菩提心論抄』(川崎大師教学研究所蔵本、旧龍谷大学教授・禿氏祐祥氏蔵本)の翻刻および訓読文を作成することを目的として、令和3年に発足した。

奥書によれば、本書は一印房定心の御本をもとに嘉応3年(1171)に書写された『菩提心論』の古注釈であり、不読段とされる「三摩地段」について解説している。

本書については、かつて山口光圓「菩提心論末註古写本に就て」(『仏教史学』創刊号、1949年所収)において概要が取り上げられており、「該古写本がいまから七百七十年前のもので、いまだ世に紹介せられざりし珍書である」と評されている。

研究会のメンバーは以下の通り。

- ・川崎大師教学研究所教授 佐々木大樹
- ・大正大学非常勤講師 小宮俊海
- ・川崎大師教学研究所研究員 駒井信勝
- ・川崎大師教学研究所研究員 別所弘淳
- ・川崎大師教学研究所研究員 鈴木雄太
- ・川崎大師平間寺教学課課員 佐竹隆信

本研究会では、各メンバーが10丁を分担して翻刻と訓読を作成し、月1回のペースで、対面・オンライン(Zoom)併用にて読み合わせを行っている。本年(令和5年度)は、9回の研究会を行って、全57丁のうち23丁までの読解が完了した。